

# 福祉の第一人者が語る「宗教学福祉」の特色

講演要旨



阿部志郎

神奈川県立保健福祉大学名誉学長

小林一茶の川柳に「歳かろ 幽へつる、ちんぷんかん」というものがある。奇妙な句だが、最初の幽は産褥に落ちたため、あとの幽は死後の瀕死をすまぬかの幽である。つまり人間は生まれてから死ぬまで、幽から幽へ移るだけなので、人生は全く変わらないという意味だ。

終戦の年の昭和20年、日本人の平均寿命は40歳だったが、現在は83歳まで伸びた。寿命は大きく伸びたが、「健康寿命」(日常的に介護を必要とせず、自立した生活ができる期間)はどうか。死亡までの不健康な期間は、男性は9年間、女性は12年間だといわれている。

現在、日本全国の特別養護老人ホームは40万8千人が利用しているが、入居待ちの数は4万人。現在の利用者数以上の高齢者が入居できずにいるのだ。日本人はいま、老いという一つの苦しみを経験させられていくのであろう。

「ハタの裏の運命をな」と私たちが意気された。懸命に死

既報の通り、布教部福祉課は先ごろ第7回「合同福祉大会」を親里で開催。記念講演では、阿部志郎・神奈川県立保健福祉大学名誉学長が登場した。大

## 第7回「合同福祉大会」から

正生まれの阿部氏は、長年にわたって日本の社会福祉を牽引してきた第一人者。「いかに老いるか」と題した講演の要旨を紹介する。

### ■日本人に思いつく「互酬の精神」

明治4年、日本は岩倉使節を団長、46人の大型使節団を欧米へ送った。帰国後、「福教親則」を作る、生活保護の前で、もはや「互酬」の原則は、困っている人へは親族や近隣が相互扶助をすべきで、国はあまり支援しないというものだった。

戦後が終わり、民主主義の時代がやって来た。経済の急激な復興とともに、福祉も充実してきた。

だが国民の意は、この成長の速さを付いていけなかったのではないか。60年代流行した言葉に「寄付金」が付き、ババア抜きというものがあつた。家を持つ若い女性がいられたが、若い女性の結婚相手にも求める条件だとして、物を大切に、人を尊重する風潮が生まれた。

# 祈りに貫かれた実践こそ

て、人を押しつけ、一台しか走っていないバスに自分だけ飛び乗ることにした。このとき、走れない人がいる、飛び乗れない人がいる、という人は、全く金頭になかった。日本は競争社会になった。

したが、平成7年に阪神・淡路大震災が起こった。最も大きな被害を蒙られた神戸市東灘区では、救助された4人に入ら、警察も消防もなく近隣の人に助けられたという。サバイブは、人が倒れていたのを助け起すという二方向のものではない。自分が倒れたら、助け起してもいい、助けられた人は、今度は自分が助けられている新しいエネルギーをもち、相互性である。

そして、3・11の東日本大震災。毛布一枚ない避難所で寒く、食料も「山里の避難所」のほうへ先ず「……」と助け取らない。それどころか、救援に来たアメリカ兵やボランティアを罵る。このことごとく日本は報じられたが、外題は「日本人の心美し」と大きく報道された。

天理教を信仰している書か、人を救うのではなく、まず女性を助けたと言われた。たすけあげられた人(い)に、助け、助けられる相互性が育まれるのだ。

「互酬」といふ、お返しを「互酬」といふ。互酬の精神は、いまも日本人の心に確かに思っていると思う。

震災で人々が成し得たこと

明治時代、米国人のD・C・グリーンという博士が天理を訪

問し、後日、天理教を紹介する本を書いた。その中で「天理」を「Heavenly Reason」と訳した。リーマンは「理性」(ロジック)であり、ロイヤルティは神の言葉である。神の言葉に生きよと、それが天理だ。私は受け止めている。

神の言葉、神の教えを生きて、宗教は、精神的な教育、社会的な教育を切り離さない。その両者が一体化しているのが、日本の宗教で、それは天理教の特徴だと思ふ。

東日本大震災では、すべてを失い、家を救えなかった自責の念を抱える人が少なからず。行方不明、葬る家もな。とてつもない大きな喪失、喪失感……。そんな中、人々が最後に成し得たこと何であつたか。それは祈りである。宗派に関係なく、人々が救済を導かれたのは祈りであつた。祈りは人間を謙遜にする、最も高貴な行為である。

私もこの世界に生きる者にとりて、生きる喜び、明日への希望を、世の人々に伝えること、その実践は、祈りに貫かれていなければならない。祈りをもって日々実践に励み、そこに宗教社会福祉の特色があるだろう。

【あべ・しろう】1926年東京生まれ。東京商科大学(現・一橋大学)卒業後、米國ユニオン神学大学大学院留学。明治学院大学助教授を経て57年、横須賀基督教社会館館長に就任。03年から神奈川県立保健福祉大学学長。日本ソーシャルワーカー協会会長、日本社会福祉学会会長、国際社会福祉協議会副会長、明治学院理事、東京女子大学理事など歴任。89年、朝日社会福祉賞受賞。著書に『地域の福祉を築く人びと』(全国社会福祉協議会)、『福祉の哲学』(誠信書房)などがある。